

松 緑 白 花

Vol 36

石垣市立石垣中学校
教頭 市原 教孝

12/6(日) 快進撃続く野球部 地区KBC杯も優勝!

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R	H	E	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
大浜中学校	0	0	0	0	0	1					1	3	0	石垣中学校	9	6	2	3	5	1	7	4	8
石垣中学校	2	0	3	1	2						8	9	2	田本地地	下地	高橋	仲中	下地	亀田				



快音! 抜群の存在感! 下地裕哉、猛打爆発!

この日スタメンマスクを被ったのは下地裕哉。2回、味方の失策で出塁を許したランナー。嫌なムード。裕哉は機敏な動きと強肩で盗塁を阻止、相手の反撃ムードを断った。

続く3回、無死1・2塁。裕哉は3球目を強振した。火を噴くような打球。あっという間に右中間フェンスへ達した。二者が還った。裕哉は2塁を蹴り3塁へ。さらに何と3塁も蹴った。スタンドは大興奮。本塁憤死も、裕哉の激走に拍手喝采。

5回の第三打席は、詰まったような当たりだった。平凡なレフトフライかと思われた。高く上がった打球は何と深めに守っていた左翼手の頭上を越えていった。

冬に耐え、春に咲け!

何という存在感だろう。こんな選手が控えベンチにいたとは。野球部は毎試合ヒーローが入り替わる。ここがこのチームの特色かもしれない。

この日、決勝のマウンドには背番号「5」の高那将喬が上がった。九州大会急造捕手は、裕哉の好リードによく応えた。いつ習得したのだろうか鋭い変化球。4回無失点の完璧な投球だった。4回には九州大会のケガで当たりが止まっていた背番号「15」の田本涼にも本塁打が飛び出した。

圧巻だったのは、5回裏の攻撃。1点を追加、得点は7-1。なお無死2塁。あと1点入れれば試合終了。日没も近い。



打者は翁長佳辰。
カウント2ストライク。

出されたサインは何と「ヒットエンドラン」だった。ワンバウンドのボールだった。サイン通りにスイング。しかし空振り三振。佳辰は全力で1塁へ走った。相手捕手は1塁へ送球。その間、2塁走者・将喬は3塁を蹴り本塁突入。ナイススライディング。サヨナラコールド。何と「空振り」で、勝利を決めてしまった。「何が起きたの?」味方応援席も虚を突かれたようなワンプレー。この試合はまさに「石中野球」。選手一丸、一瞬一秒、手をゆるめることのない隙のない試合運び。

12月26日(土)からは、このチームになって2回目の県大会。まだまだ課題山積のはずだ。慢心することなく冬の練習を重ねてほしい。しっかりと強い根を張って、春の静岡、大輪の花々を咲かせてほしい。

12/6 (日) 石中快進撃を支える「絆」 生徒会役員に表彰状



郷土芸能部の東京派遣を支援しよう！ 8月15日の「石中夏祭り」。生徒会役員が誰より積極的に動いてくれた。職員・保護者も舌を巻くほどの働きぶり。

今思うと、この日が快進撃の原点だったような気がします。「一生懸命がかっこいい」、「困っているあなたのことがほっとけない」。誰より早く登校し、校内を掃き清め、おはようの明るさでみんなを迎える。率先垂範の継続実践。

いつしか、その健気さが先生方にも、後輩たちにも伝わって来ました。例年、1～2本だった懸垂幕は、この秋だけですでに5本。架ける場所が無くなって、急きよ、下地盛喜PTA会長や新崎長次同福祉部長がリングアンカーを取り付けてくれました。感謝。

それぞれの幕の下部には「石中 P T A ・生徒会」と書いてありま

す。「君たちが支えてくれた輝き」。校長先生も、私も心からそう思います。

この日の午後、大濱信泉記念館にて「沖縄県退職校長会善行生徒」の伝達表彰式。地区10件のうちのから2件。桃原由紀子地区退職校長会長より生徒会長の石垣璃さんが代表して表彰状を受けました。会場後方には、他の役員26名も受賞を見守り。大いに誇って下さい。



12/4 (金) 楽しい「修学旅行」にしましょう 修学旅行説明会



いよいよ迫ってきましたね。来月29日出発。3泊4日の修学旅行。佐賀・天山スキー場、長崎市内自由見学、熊本城、三井グリーンランド、福岡・太宰府を巡ります。

この日6校時、お忙しい中のご来校、ありがとうございました。2年生諸君、しっかり準備して、心に残る修学旅行にしましょうね。

右写真は12月3日、2年4組の特活の授業風景。上江洲茂人先生の「長崎市内、どこを巡る？」みんなで絵地図やパンフレットを見ながら事前学習。「眼鏡橋」、「グラバー園」、「中華街」などの声に紛れて「活水女子大！」



12/1 (火) 1年生に思春期教室 高原剛一郎氏が講演



人生長く生きていくときさまざまな艱難辛苦(かんなんしんく)に出会います。しかし、頑張ってそれを乗り越えようと、自分を強くしてくれていた、優しくしてくれていた、当たり前だと思って過ごしていた日常が幸せに感じたり。当時の艱難辛苦に感謝の念さえ覚えます。

この日の高原剛一郎氏もそう。大学受験に失敗したり、最愛のパートナーを見送ったりなど。ラジオパーソナリティーを務めながら、多忙なスケジュールを調整、3年前から毎年1度、本校1年生に講演。目には見えないけれど、大きな力をいただいています。以下は、南風原莉実さん(1-4)の感想です。

「心ない言葉で自分の価値を下げられるとイヤな気持ちになるから、言葉は大切に選びながらつかいたい。」「人は生きている、それだけで大きな価値がある。」「自分をずっと支えることができるのは一番ずっと一緒にいる自分。」「自分が幸せそうにしていると、親も周囲の人たちも幸せになる」。たくさんの事を教えてもらいました。今日の講演を聞いて思ったことは、誰かの意見に振り回されずに生きていきたいということです。

もちろん、自分が悪いところは直していきますが、他人がいうことは「その人の好みの問題である」場合も多いので、必要以上に気にしないでいようと思います。また、どんなに苦しくても、生きてさえいれば自分が考えもしなかったいい事が起こるかもしれない。だから、自分で自分の命を捨てるようなことだけは絶対にしないでおこうと思いました。

